



時計の音よりも大切なもの

プロムソムバット ペンナパー
PROMSOMBAT PHENNAPHA

来日して一年目、私は介護という仕事を、やさしさと笑顔にあふれたものだと考えていました。しかし実際に現場に立ってみると、そのやさしさの裏には、日々向き合わなければならない責任とプレッシャーがあることを、少しずつ知っていきました。

特に入浴介助の時間になると、私は「時間」に意識を向け、少しでも早く終わらせようと必死になっていました。そしていつの間にか、目の前の方を「一人の人間」としてではなく、「ただの業務の一つ」として見てしまっていたのです。

ある日、私は利用者様の入浴介助を担当しました。その方はとても優しく、いつも周りの人に温かい言葉をかけてくださる方です。しかし、片麻痺のため動きがゆっくりで、どうしても介助には時間がかかります。その一方で、他にも私の介助を待っている方がいました。「もっと早くしなければ」とその思いばかりで焦れば焦るほど手は震え、動きも雑になってぎこちなくなっていくます。私は何度も自分を責めました。どうしてうまくできないのだろう、と考えました。

入浴を終え、私は利用者様の体を拭き、靴下を履かせようとしていました。焦りのせいで指先は冷たくなり、ただ「一つの作業を終わらせる」その気持ちだけで、静かに靴下を広げた、そのときでした。「靴下を履かせ方、上手ですね」と思わず顔を上げると、利用者様がやさしく微笑みながら私を見ていました。その瞬間、

いつも私を追い立てていた時計の音が、ふっと消えたように感じました。

私はただ早く終わらせようとして手を動かしていただけでした。けれど利用者様は、そのぎこちない動きの中にある「小さな一生懸命さ」を感じ取ってくださっていたのです。「ありがとうございます」と声を震わせながら答え、私は涙が出そうになって下を向きました。本当は私が支える側であるはずなのに、そのとき支えられていたのは私の方でした。

この経験から、私は大切なことに気づきました。介護において、技術や速さは確かに必要です。しかし、それ以上に大切なのは、相手の尊厳に寄り添う「心」なのだと思います。たとえ、ほんの数秒の靴下を履かせる動作であっても、そこには、言葉を使わずに伝わる思いがあります。

日本に来て二年が経った今、以前よりも仕事に慣れ、スムーズに動けるようになりました。それでも、焦りを感じるたびに、私はあの日のことを思い出します。あのときの靴下の感触と、利用者様の温かい言葉を。私の仕事は、ただ時間通りに業務をこなすことではありません。靴下一つの介助の中にも、誰かの心が静かに伝わっている。そのことを、これからも私はこの気持ちを大切に守っていきたいです。一人ひとりの足元に寄り添い、温かい心を届けられるような介護職員を目指して、歩み続けていきたいです。

受賞の喜び



国 籍 タイ
職 種 介護
実 習 実 施 者 社会福祉法人寿老園老人ホーム
監 理 団 体 協同組合西海協

プロムソムバット ペンナパー

このたびは、私の作文を優秀賞に選んでいただき、本当にありがとうございます。
受賞できたことはとても嬉しくて感動しています。

今回の作文は、介護の仕事をしている中で実際にあった出来事から、特に心に残っていることを選んで書きました。

今回の賞をいただくことができたのは、支えてくださった皆様のおかげです。本当にありがとうございます。

この受賞をきっかけに、これからも日本語の勉強を頑張りたいと思います。そして、もっと日本語が上手になって、自分の気持ちや考えをしっかりと伝えられるようになりたいです。これからも感謝の気持ちを忘れず、努力していきたいと思っています。

指導員のことば

優秀賞受賞おめでとうございます。寿老園とPROMSOMBAT PHENNAPHAさんのご縁があり、私達はPROMSOMBAT PHENNAPHAさんと出会う事ができました。技能実習生の初めての受け入れでお互いに、とても緊張をしながらも楽しく、大切な時間を過ごさせて頂いている事、感謝をしています。初めての日本、介護の仕事に夢を持ち入国をされたと思います。目の前の現実、イメージと違う事が多くあった事でしょう。でも、PROMSOMBAT PHENNAPHAさんの素直さ、謙虚さ、口数は少ないけれど芯の強さで「今」があり、人として、介護職としての大切な「こころ」を忘れず努めていること、私達の宝物です。

介護老人福祉施設寿老園 中井 智枝